



SALVATIONIST

ときのこえ

2026年標語「火を燃え立たせ続ける」(出エジプト記27章20～21節リビングバイブル)



二〇二六年五月十五日発行

明治二十八年創刊

福音版・毎月一日発行

広報版・奇数月十五日発行

初夏号

広報版

2026

May-June

No.2906

2026年 救世軍標語

「火を燃え立たせ続ける」

「…絶えずともしびを燃やし続けなければならない。…これはイスラエルの永遠のおきてである。」

出エジプト記 27章 20～21節
(リビングバイブル)



ペンテコステ 5月24日(日)

「五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。すると、一同は聖霊に満たされ、「霊」が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。」

(使徒2:1～4)

ときのこえ SALVATIONIST

初夏号 広報版
2026 May-June
NO.2906

もくじ

■メッセージ	
希望を満たす力	
少佐 徳永 由美	3
■〔連載〕聖潔の流れに立つ 第43回	
新しい愛	
大将 ショー・クリフトン	4
■集会報告	
司令官及び軍国女性部会長送別集会	5
■インタビュー	
日本での五年間の奉仕を終えて	6
■挨拶	
離日にあたって	
少佐 中島 美和	7
■集会報告	
コイノニア・リトリート	8
■各地のニュース !!	
清瀬小隊	8
西日本連隊京阪神地区、東京東海道連隊	
東海道地区、北海道連隊	9
西日本連隊中国四国地区、清瀬病院	10
上野小隊	11
■YP(青少年部)・ファミリーニュース	
岡山小隊、天満小隊、横浜小隊	11
■社会鍋による支援	
岡山小隊	12
■各地の小隊から 第15回	
岡山小隊	12
■〈連載・第38回〉	
神の呼びかけ～神の民となるために～	
聖礼典について	13
■救世軍見解表明	
社会道徳に対する救世軍の立場	
第21回「家庭内虐待」(2)	14
■救世軍公報	15
■コラム 救世軍の音楽 第1回	15
■万国指導者会議	16



@SArmyJP



SArmy_JP



救世軍
The Salvation Army

きりと

- ☐ 『ときのこえ』購読を申し込みます。
(1年分1140円。税込、送料別)
- ☐ キリスト教についてもっと知りたいです。

ご氏名

ご住所

表紙の写真：4月5日、送別集会で
メッセージをする司令官スティーブ
ン・モーリス大佐

メッセージ

希望を満たす力

少佐 徳永 由美



4月5日 司令官夫妻送別集会の席上、2年生への進級が発表されたラーランザウイ候補生（記事5ページ）

「希望の源である神が、信仰によって得られるあらゆる喜びと平和とであなたがたを満たし、聖霊の力によって希望に満ちあふれさせてくださるように。」（ローマ15：13）

時々、「ご希望のお時間は？」「ご希望のお品は？」

「ご希望の条件は？」ときまざまな要望を尋ねられることがあります。そのようなとき、自分の都合好みに合わせてもらえると助かります。日常のこのようななさやかな望みは、すぐに満たされて「良かった」と満足したり、「ご希望にお応えできず申し訳ありません」との返事にガッカリしたりすることで、次々と終わっていくようです。

しかし、もう少し時間がかかり、すぐに結果が見えないことにも、私たちは「希望」をもちます。むしろとても時間もかかり、大変な労力が必要なことほど「大きな希望」をもつのではないでしょう。すでに手に入れているもの、確保しているものでないからこそ、それは大きな可能性を期待させるのです。しかし同時に「ダメかもしれない」という不安も伴います。実現までの長さのため、あるいはさまざまな障害のために失望、絶望を経験することもあります。私たちが生き生きと生きるためには「希望」が必要なのです。

聖書は「聖霊の力によって希望に満ちあふれる」と告げています。いつも私たちと共においでくださり、慰めを与え、力を与えてくださる聖霊は希望をくださる方でもあります。

この世の中では、「希望どおり」にならないことがたくさんあります。時間も物も条件も私たちの都合や好みに関係なく決まっているような、不公平でしばしば残酷な状況に置かれることもあります。そこでは「希望」は「絶望」の原因かとさえ

思えます。しかし、神様は私たちの「ご希望」に合わない世界に、聖霊の力によって「希望」をもたらしてください。しかも旧約聖書の時代から「すべての人に聖霊を注ぐ」と約束してくださったとおり、聖霊はすべての人に注がれます。

「その後 わたしはすべての人にわが霊を注ぐ。あなたたちの息子や娘は預言し 老人は夢を見、若者は幻を見る。その日、わたしは奴隷となつてゐる男女にもわが霊を注ぐ。」（ヨエル3：1、2）

「息子、娘」「老人、若者」「奴隷となつてゐる男女」と、およそ条件の違いや差別になりそうな性別、世代、社会的地位などを超えて神の霊が注がれ、その力が「希望」を満ちあふれさせてくださるのです。

私たちすべてに必要な希望は、今現在の自分の都合や好みや目標などを超えたものです。神の約束が我が身に実現し、神の栄光を表す祝福です。まだそれに届かなくても謙虚に目指して生きる力、どんなに厳しい壁にぶつかっても「絶望」しない力です。そのような大きな力は神から来るものしかありません。聖書が示している神は「希望の源」です。神から希望をいただく者は何事も喜び、何事があっても変わらない平和で満たされます。

気がかり、心配事、不満にあふれ、「希望」の満たされ難い環境の中でも「希望の源である神」を信じ、聖霊の力によって「希望」に満たされることを感謝いたします。

夏期訓練任命集会
6月21日（日）

会場：山室軍平記念ホール

連載

聖潔の流れに立つ 第四十三回

新しい愛

大将 ショー・クリフトン



第一章…救世軍主義

救世軍主義というケーキのレシピ？

では、救世軍主義とは何か？ それは何で構成されているのか？ 私たちが救世軍主義というケーキを焼こうとしていると仮定してみよう。不可欠な材料は何になるだろうか。他のケーキも同じ要素をいくつか含んでいるかもしれないが、救世軍主義のケーキだけがそのすべてを備えている。私は八つの材料を提案したい。

- 一、現実的である
- 二、理想を抱く
- 三、受容的である
- 四、他者を思う
- 五、簡素である
- 六、国際的である
- 七、目に見える
- 八、耳に聞こえる

私たちのケーキは、これらすべてを等分に混ぜ合わせる必要がある。文章にすると、次のようになる。

「救世軍主義とは、神によって創案され、救世軍にゆだねられた福音の表現である。それは最良の状態において、現実的であり、理想を抱き、受容的であり、他者を思い、簡素であり、国際的であり、目に見え、

そして、耳に聞こえる。」

救世軍主義は現在、世界に誕生して約百四十年になり、百八の国々、あらゆる大陸に存在している。（執筆当時、二〇二六年現在は百五十一周年、百三十四カ国。）この記述（これは定義ではない）には説明が必要である。一見すると、どの教会ももちたがる明白な特性のように思われ、少し味気なく見えるかもしれない。したがって、右記の文章にある八つの特質を詳しく見ていく必要がある。すべての教派がこれらすべてを兼ね備えているわけではないからこそ、私たちは今、この作業に取りかかる。そして最後に、私は「脆弱性」という九番目の材料を加えたい。なぜなら、私たちは自分自身に対しても他者に対しても誠実になり、救世軍主義は脆弱なものでもあると声に出して言う必要があるからである。

救世軍主義は現実的である（特質一）

救世軍主義は現実的である。それは人間の本性と罪について、徹底して現実的（地に足がついた状態）である。経験豊かな救世軍人に対して、あなたの罪深い行為や性的志向の闇を語ったとしても、彼らがショックを受けることは決してないと言われている。私たちは人間が落ちていかないうちに存在しないと説く聖書を信じている。

私たちは、罪の真の醜さを自ら見、あるいは実際に人生において経験してきた。これにひるむ者がいるかもしれないが、私たちはそうではない。私たちは、創立者ウィリアム・ブース大将による「魂のために駆けそして最悪の魂のために駆け！」という往年の召命に応えるべく、今日も神の恵みを求め続けている。私たちは、最も低きに在る人々と関わるよう召されている。彼らが見いだされる場所へ、私たちは行かなければならない。救世軍主義は自ら探し求める。失われた人々が助けを求めてくるのを座して待つことはしない。

また、救世軍主義は、昨今の、罪が容認されているような思考体系には同意しない。罪は容認されるもの

ではない。聖書がそう語っている。もし救世軍主義が聖さと義に関するあらゆる神聖な基準を、大胆に、勇敢に、知的に、そして意図的に維持することを怠る日があれば、地獄は高笑いするだろう。罪の恐ろしさ、その陰湿な性質、人を奴隷にする力についての私たちの理解は、弱まることはない。したがって、救世軍主義は永久に警戒を怠らない。偉大なウィンストン・チャーチルは、「我々は通常時から、敵を選んだタイミングでどんな攻撃をしかけてきても、それを撃退できる準備をしておかなければならない」と述べた。彼は肉体的な戦争について語ったが、霊的な戦いにおいても、この言葉はいかに真実であることか。

救世軍主義は、罪とは神の法または意志に反するあらゆる行為であることを知っている。たとえ私たちの行動が他者に被害をもたらしたのだとしても、それは本質的に神への反抗である。救世軍主義は、罪人を自らの罪に対して責任があるものと見なす。なぜなら、罪を犯しやすいとはいえず、人間は自由意思をもつ主体だからである。私たちは罪が人を神から引き離すことを知っている。罪は罪悪感を伴い、神の怒りを招く。それは人を畏にかけ、奴隷にし、精神を暗くし、心を汚す。それは意志を弱め、良心を鈍らせる。その罰は死である。なぜなら、罪深く赦されていない魂は神を見ることがないからである。罪は恐ろしい結果を伴う。恐るべき悪である。このことが、私たちの魂を救う業に緊急性を与えている。

しかし、救世軍主義の核心にあるのは、人間の魂がその贖い主であり創造主に出会う象徴、すなわち「恵の座」（出エジプト25・17、26・34）である。恵の座がない救世軍の礼拝の場は、完全ではない。それは私たちの脈動であり、心音である。そこで罪人は赦しを見いだし、聖徒はさらなる恵みを見いだす。それゆえ、罪に関する私たちの現実主義のただ中に、キリストにあって人間が到達しうる高みについての、動かされることのない明るい理想主義が存在している。

(続く)

集
会
報
告司令官 スティーブン・モーリス大佐及び
軍国女性部会長 ウェンディ・モーリス大佐 送別集会

4月5日(日) 午後2時30分 山室軍平記念ホール

イースターの日曜日の午後、おこなわれました。司令官夫妻の送別とともに、士官候補生の進級発表、シンガポール・マレーシア・ミャンマー及びタイ軍国伝道事業部長として転任する中島美和少佐の壮行の時も併せてもたれました。

司会の書記長官西村保大佐補は会衆を歓迎し、ジャパン・スタッフ・バンド(JSB)とピアノの伴奏で『救世軍歌集』21番「聖なるかな」を一同で賛美しました。副財務管理部長勝寛隆少佐が開会祈禱を献げ、山室軍平カレッジ校長代行添田美和少佐は、ラーランザウイ候補生が1年次の学びと訓練に誠実に取り組んだことを報告し、2年生への進級を司令官が宣言しました。会衆は大きな拍手で祝福し、候補生はハレルヤの敬礼で応えました。(写真3ページ)

続いて、中島美和少佐の送別の時。これまで東京東海連隊で共に連隊リーダーの任にあった鈴木真理子大尉(東日本連隊長)が花束を贈呈し、3年間共に奉仕した中での恵みと、神様の計り知れないご計画の中で、日本軍国にとって痛手とも思えるこの転任も大きな祝福となると信じることに、これまでのリーダーシップに感謝しつつ、新たな地での働きに専心されるよう、壮行の言葉を述べました。中島少佐は離日を前にしての思いを挨拶しました。(7ページに掲載)

司令官夫妻の送別の時に移り、感謝の言葉を花崎拳さん(本営職員)と、張田直子少佐が語りました。花崎さんはファンドレイジングの働きを通して夫妻から教えられたこと、コロナ禍から始まった難しい時期におけるリーダーシップへの感謝を述べました。張田少佐は、スティーブン大佐の幼い頃からの思い出を交えつつ、軍国の指導者としての責任を負いながら、小隊に出陣された時には戦友一人ひとりの気持ちに寄り添い、小さな小隊の交わりを喜んでおられたことへの感謝を述べました。

この集会には米国から、司令官夫妻の子息アンドリュー・モーリスさんと娘のアンジェラ・マーレーさんが出席し、コルネット奏者であるアンドリューさんがJSBと共にコルネット・ソロ「キリストにはかえられません」を演奏しました。演奏後、お子さん方から司令官夫妻に花束が贈呈され、続いてウェンディ・モーリス大佐が挨拶。任官時に母が贈ってくれた刺繍作品(これまでの任地が刺繍されている)を見せながら、日本での数々の思い出を振り返り、日本が自分にとって家となり、戦友方と神の家族とされたことの感謝を語りました。そして、「地上で再び会えるかはわからないが、キリストにつながって



中島少佐と鈴木大尉



アンドリューさんと JSB の演奏



花崎さん



張田少佐



いるならば天の御国で必ず再会できる。どうか神に近くあり続けてほしい。御言葉を読み続け、祈り続けてください」と語りました。

アンジェラさんが創世記18章22～33節を英語で朗読し、司令官は「垣間見る神の心」と題しメッセージをしました。「主の前にとどまり続けることを選び取った人々に、神は語りかけられる。数の多さではなく、真実な信仰をご覧になる。アブラハムは神の前に立ち、ソドムの町に50人、45人、40人の正しい人がいるなら…と交渉をした。神と失われた人々の間に立ってアブラハムは執り成し、その祈りによって多くの人が滅びから免れた。わたしたちはどうだろうか。神を知らない多くの日本の人々のためにわたしたちは代弁者となるべきであり、神はなお、日本の救世軍に目的をもっておられる。神は恵みと憐れみをもって、信仰者の祈りを聞いてくださる。神の、あきらめない愛が常にあることを覚え、証しを続けていこう。」恵の座への招きがあり、祈りの時がもたれました。また、司令官は西村保大佐補と和江大佐補、山谷真少佐と昌子少佐を高壇に招き、新たな軍国リーダーの上に神の祝福と導きを祈りました。



新指導者のために祈る

ジャパン・スタッフ・ソングスターズが「Go in Peace(安心して行きなさい)」を合唱。最後にJSBが「The light of the world」を後奏し、閉会しました。集会後、玄関ロビーでは司令官夫妻と中島少佐に感謝と激励、祈りの声をかける人の列が続きました。(会衆128人、恵の座2人)

インタビュ

日本での五年間の奉仕を終えて

日本での五年間の奉仕を終え、新たな任地へと向かう司令官ステイブン・モリス大佐と軍国女性部会長ウエンディ・モリス大佐に、日本での働きを振り返りつつ、心に残る恵み、困難の中で経験した神の導き、そして次世代への希望について語っていただきました。（※二〇二二年四月一日〜二〇二六年四月三十日。コロナ禍による入国規制のため、日本人国は二〇二二年四月三十日でした。）

インタビュー実施：二〇二六年三月十一日

―日本での五年間の任務を終えようとしている今、率直にどのようなお気持ちですか。

ウエンディ…今は二つの世界の間に立っているような気持ちです。私たちは日本での生活を心から愛してき

小さかったこともあり、すぐには実現しませんでした。救世軍が必要としてくれるなら、それを神の召命として受け取ろうと思っていました。

ました。救世軍士官になった頃から、いつか海外で奉仕する召命があるのではないかと感じていましたが、その思いが具体的に変わったのは、一九九五年に百年祭で日本を訪れた際に、張田望大佐補（当時）から「日本での奉仕を考えてみませんか」と声をかけていただいた時でした。当時はまだ中尉で、故郷を離れることに大きな不安がありました。それでもその言葉は心に残り、もし機会があるなら日本で奉仕したいと祈り続けてきました。子どもたちが

実際に日本で奉仕できたことは大きな特権でした。今、最も恋しく思うのは、私たちの人生の一部となってくださった皆さんです。霊的な家族と出会い、この文化の中で神が働かれる姿を見られたことは、かけがえない恵みでした。

「まず日本に着いて、この地で仕えたい」という思いが強くなりました。実際に来てからは、この国の文化を理解しなければ正しい判断はできないと痛感しました。私たちは日本のすべてを知っていたわけではありませんが、そこから皆さんの助言と支えが必要でした。そのことが、チームとして共に歩む姿勢につながったと思います。

―この五年間で最も印象に残っていることは何でしょうか。

―日本の救世軍の人々から何を学ばれましたか。

ステイブン…私が学んだのは、人を信頼することです。日本の安全さの中で、相手をまず人として信じる文化に触れました。また、引退士官の忠実さ、若者たちの可能性にも励まされました。人数が少なくても、忠実な信仰が受け継がれていることは大きな力です。

ステイブン…私にとって、日本で奉仕することは長年の願いであり夢でした。夢を実現できる人は多くありませんが、神はその道を開いてくださいました。コロナ禍で十三カ月も足止めされ、二つの国の間で引き裂かれているような感覚もありましたが、だからこそ

「去るまでに日本語が話せるようになりたい」と願っていましたが、実際にはとても難しかったです。しかし、主は別の道を備えてくださいました。SNSの翻訳機能を通して、皆さんの祈りの課題や心の状態を知ることができたのです。完璧な言葉がなくても、関係は深められるのだと学びました。

ステイブン…私の両親や家族がかつて日本で奉仕した、その「記憶」に実際に触れられたことです。子ども頃に聞いた名前や地名に、大人として再会できたことは深い恵みでした。神が昔から備えておられた道を、今自分が歩かせていただいているという確信をもりました。

―ステイブン…私が学んだのは、人を信頼することです。日本の安全さの中で、相手をまず人として信じる文化に触れました。また、引退士官の忠実さ、若者たちの可能性にも励まされました。人数が少なくても、忠実な信仰が受け継がれていることは大きな力です。

ステイブン…非常に困難な決断を求められる場面が何度もありましたが、私たちは「神がドアを開き続けてくださるなら、その道を歩もう」と決めていました。驚くべきことに、主はいつも必要な時に道を備えてくださいました。日本で学ん

ステイブン…私が学んだのは、人を信頼することです。日本の安全さの中で、相手をまず人として信じる文化に触れました。また、引退士官の忠実さ、若者たちの可能性にも励まされました。人数が少なくても、忠実な信仰が受け継がれていることは大きな力です。

だ、祈りの後の静かな「間」も、神との対話を深める大切な贈り物でした。

—日本の救世軍の強みと将来への希望をお聞かせください。

ウエンデイ…やはり強みは「人」です。かつての時代を知る引退士官が、今も忠実に祈り、支えておられることに希望があります。小さくても強く、忠実であるなら、それで良いのだと思います。関係を通して少しずつ人々が神に触れていくことに、大きな希望を感じます。ステイブン…私も若い世代に大きな希望を見ています。ジャパン・スタッフ・バンドが外部の人々とながらながら宣教していること、地域や他教派との協力士官のメンタルヘルスケアのセミナーなど、新しい広がりが生まれています。神はこれからも日本の救世軍を導いてくださると信じています。

—次世代や献身を考えている方々へのメッセージをお願いします。

ステイブン…神が召しておられるのに応えないなら、大きな祝福を逃してしまう

かもしれません。不安があっても、神は道を整えてくださいます。岸につないだボートを解き放つように、一歩踏み出してほしいと思います。

ウエンデイ…創立者ウィリアム・ブースは「必要こそが召命である」と語りまして。まずは数年でも踏み出してみるなら、その中で神の導きが見えてきます。任命で経験したことが、その次の任命に対して自分を準備してくれた、と経験することが多くありました。冒険心をもって神の導きに応えてほしいと思います。

—最後に『ときのこえ』読者にメッセージをお願いします。

ウエンデイ…私たちが家族として受け入れてくださったことに心から感謝します。どうか神の近くに留まり続けてください。たとえ地上で再会できなくても、主にあって必ずまた会えるという希望があります。ステイブン…日本で奉仕できたことは大きな光栄でした。どうか神を信頼して

ください。神は決して失望させません。私たちの希望はいつもキリストにあります。日本の人々を愛しておられる神に従い、福音という贈り物を分かち合い続けてください。五年間の奉仕を通して感じるのは、日本の救世軍を支えてきた祈りと忠実さ、そして次世代へ受け継がれる希望です。別の時を迎えても、ここで結ばれた交わりは終わりません。主に従って歩んだ日々そのものが、一人ひとりに静かな励ましをもたらします。必要こそが召命であるという言葉のとおり、主は必要のある場所に働き人を遣わし、その歩みを必ず支えてくださる、と私は確信しています。



4月5日送別集会で、お子さんたちから花束の贈呈

挨拶（四月五日 司令官夫妻送別集會にて）
離日にあたって

少佐 中島 美和

ハレルヤ。復活の主をあがめ、賛美します。今回、海外奉仕の任命が出て、心境を聞かれた時、本当に複雑な心境だと答えました。いま小隊連隊再編の真只中において、士官不足の深刻さを痛感している中で軍国を離れていくということは、戦線離脱するような申し訳なきを覚えるのが正直な気持ちです。共に働き、祈ってきた仲間と離れるというのは、本当に寂しく思います。でも、それと並行して、自分に与えられた神様の召命を今、強く感じています。

私は保育園を卒園する時、大人になったら何になりたいかと聞かれて、宣教師と答えました。それは長野で開拓伝道をしてもらった宣教師の先生たちが本当に素敵に見えたからです。小学生の時は、シュバイツァーやリビングストンなど、海外で働いた人たちの伝記を読んで感銘を受けました。そして子どもの頃に親しくしていた知り合いの女性がウイクリフの働きのために宣教師としてインドネシアに遣わされたことも、ずっと心に刻まれていました。アメリカに八年間留学したということもあり、海外との結びつきというのは自分のアイデンティティの一つだと思つて今に至っています。

けれど、日本の救世軍で士官となるように召された時、海外に行くことは諦めたというか、神様にお献げしました。きつとそういう機会はないだろうと思つたのです。ですから、今回海外奉仕としては二回目の、それもシンガポール・マレーシア・ミャンマー・タイという場所に遣わされると知った時に、本当に驚きました。神様は私が五歳の

時に抱いた願いを覚えていてくださったんだらうか。いや、むしろ、神様のほうが、そういう願いを私の心に植え付けてくださったんだらうか。だとしたら、今回のこの任命は、神様の大きなご計画の中でどんな意味をもっているんだらうか。今はまだわかりませんが、神様のなさることはすべて時にかなって美しいということを信じて、神様が開いてくださった扉を進んでいきたいと思っています。

離日を前に、「あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ」（ヨハネ15・16）の御言葉が与えられています。私の人生は神様のものです。子どもの頃に宣教師になりたいと言っていたながら、十代二十代の頃は神様から本当に離れた生活をしていました。罪に死んでいた私を、神様は長野小隊で突然に救ってくださいました。御言葉によって生き返らせてくださったのです。その時の経験がなかったら、私は今頃どこをさまよっていたらうかと思ひます。今、こうしてここに立っていられるのは、ただただイエス様の大きな憐れみと忍耐のおかげです。そしてこんな私に対して、神様の愛を示し、感化を与えてくださった多くの方々のおかげです。

三年間の任期なので、今生の別れではありませんけれども、でもいろいろな方々の顔を思い浮かべています。応援し、祈り、励ましてくださる方々に感謝しています。送り出してくださる日本の救世軍と指導者方に感謝しています。願わくば、これから出かけて行く先で、良い実を、永遠に残る実を結ばせていただいて、そしてそれを持ち帰ってきたいと思っています。すべては神様の御心がこの地でなされるために、イエス様の御名があがられますように、そのことを願って出発したいと思っています。

集会報告

コイノニア・リトリート

2月13日(金)～15日(日) 山室軍平カレッジ

昨年に引き続き、ニューライフキリスト教会牧師の豊田信行先生、かな先生をゲストにお迎えし、「自分の十字架を負う～本当の自分に出会う～」のテーマで開催しました。テーマ聖句は「それから、弟子たちに言われた。『わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい』」(マタイ16:24)でした。

1日目の講演では、実を結ぶ働きについて学びました。「私たちは、生活や奉仕の中に、たくさんのすべきことをもっているが、その中には、もう終わらせるべきものがあるのではないか。実を結ばないとわかっているもの、自分の心の負担になっているもの、自分が負うべきでないものを手放さなければ、神様が与えてくださっている、「本当の自分」と出会うことはできない。神様の召しに^{こた}えるつもりが、周りの期待に応えることに心を配りすぎているのか。そのせいで本来するようにと召されていることに力を注げずに、疲れ切ってしまっていないか」と、聖書の御言葉を通して問われました。多くの参加者が新たな発見とともに、学び、応答する時をもちました。グループに分かれての分かち合いも、とても祝福されました。それぞれのために祈り、励まし合う時となりました。

2日目は、創世記の天地創造の神様が7日目に創造の業をやめ、安息されたところから学びました。「夕べがあり、朝があった。」これは、私たちに神様からの恵みのリズムを教えてくれる。私たちが眠る。そう

すると、神様がその働きを開始される。私たちが眠っている間、神様はご自身の契約を^{すいこう}遂行される。私たちが目覚める。そして今度は、神様の働きに参加するようにと私たちが招かれる。私たちは信仰によって神様に応答し、働くことによって神様に応答する。私たちは、主のため^{すいこう}に言いながら、自分の働きの中に主を招いて、自分の業をするために、必死にもがいていないか。私たちは、自分の働きのために主を利用するのではなく、主の働きのために招かれている一人ひとりである。」働く中に充足感をもつか、休息の中に充足感をもつか、と問われました。この問いは、参加者に新しい気づきを与えました。神様を自分の主として生きることの本当の意味を考えさせられる時となりました。

3日目は、参加者一同で聖別会を守りました。コイノニア(交わり)・リトリート(修養会)の名にふさわしく、すべての学びと交わりが祝福され、神様からの恵みを豊かに受けることのできた3日間でした。(参加者24人、青少年部報)



NEWS!!
NEWS!!

各地のニュース!!

佐より辞令書を授与されました。小谷野曹長は、キリストにとらわれて歩む決意を新たにされたことを証しました。



清瀬小隊

●下士官任命

2月8日(日)聖別会で、小谷野冷子家庭団書記が大人部曹長の任を受け、小隊士官高畠欣男少

5月10日(日)

母の日

医療サンデー 6月7日

救世軍の医療の働きとすべての医療従事者のため、祈りましょう。

THE SALVATION ARMY **others** TRADE FOR HOPE

Others オンラインショップ公開

この度、出版供給部ではOthers製品専門のオンラインショップを公開しました。
URLまたはQRコードからアクセスできます。
<https://sa-others.square.site/>



NEWS!!
NEWS!!西日本連隊
京阪神地区

各地のニュース !!

●新年懇親会

2月8日(日)午後2時15分から、天満小隊を会場に開催しました。久しぶりの開催で、寒い日でしたが、各小隊から戦友が集まり、恵みの時となりました。

連隊長本村大輔少佐の進行で進められ、奏楽はOCB(大阪セントラルホールバンド)と陳イクノリさん(天満)がしました。開会の賛美と祈りの後、関根結実ユースセクレ

タリー(天満)と石田征慈兵士(泉尾)のリードで、2026年の2曲のテーマソングを賛美しながら、交流の時間をもちました。神戸・泉尾小隊の合同賛美や、京都小隊からの近況報告、天満小隊からの救世軍歌の曲当てクイズなど、楽しいひと時でした。最後に連隊長がメッセージをし、終了後はお茶と懇談の時をもちました。(参加者38

人、オンライン2人)



神戸小隊・泉尾小隊合同の賛美



東京東海道連隊 東海道地区

●新年懇親会

2月11日(水・祝)、名古屋小隊を会場に東海道地区新年懇親会を開催しました。静清、浜松、名古屋小隊より21人が集いました。午前中、名古屋小隊士官加藤直子少佐の司会で礼拝の時をもちました。連隊女性部書記鈴木眞理子大尉が、イエス様の十字架の流された血潮により朝ごとに新たにされる恵みを証しし、連隊長中島美和少佐がイザヤ45:3~7より、「主の光に照らされて、暗闇におかれた宝を見いだし、主が一人ひとりに与えておられる力、使命を受け取って歩めますように」と御言葉を取り次ぎました。

その後は、静清小隊士官熊田光子少佐の進行で近況を分かち合いながら昼食会。午後は、賛美を歌い、チームに分かれてゲームを楽しんだ後、連隊長より小隊再編についての話と、祈りと分かち合いの時をもちました。次年度から連隊の再編が実施されていきますが、皆で祈り

求めていく時に、必ず道が開かれていくと思うひと時でした。

(連隊報)



北海道連隊

●連隊送別サンデー

この度の連隊再編により3月22日(日)は、北海道連隊として最後の日曜日となりました。

連隊本部のある札幌の他、道内の遠軽、函館、帯広の各小隊で連隊送別サンデーとして聖別会を守りました。各小隊で、書記長官からの挨拶文を読み上げ、感謝と新しい出発に向かっての祈りの時をもちました。札幌小隊では、連隊旗の降納式もおこなわれました。



札幌小隊で

NEWS!! NEWS!!

西日本連隊 中国四国地区

各地のニュース !! ●新年懇親会

2月22日(日)午前11時より、今年の標語「火を燃え立たせ続ける」のテーマのもと、福山小隊を会場に開催しました。6年ぶりの新年懇親会の開催でした。岡山、広島、呉、里親支援センター明日葉から集い、オンライン配信で参加した方もありました。合同聖別会は友安渚大尉(福山)の司会で進められ、総勢8人の合同バンドによる力強い演奏により、参加者一同、心からの賛美を献げました。吉田清美家庭団書記(岡山)が証言をし、齋藤丈夫大尉(広島、呉)がイザヤ60:1、2より「闇を払う光」と題しメッセージ



をしました。

愛餐会は、席替えをして、他の小隊の方々との交流を楽しみました。午後の懇親会は、藤井健次大佐補(岡山)の進行のもと、齋藤大尉がゲームを導き、大変盛り上がりしました。連隊長 本村大輔少佐、連隊女性部書記 本村いずみ少佐は監査のため福岡小隊からオンラインで参加し、挨拶をしました。連隊長の祈祷をもって閉会しました。(合同聖別会 24人、オンライン 8人。愛餐会 23人、オンライン 4人。懇親会 23人、オンライン 6人)



清瀬病院

●救世軍清瀬病院 87周年創立記念集会

3月2日(月)午後1時30分から、病院チャペルにて87周年創立記念集会がおこなわれました。医療部長西村和江大佐補の司会で、賛美をし、吉田真中中将感謝の祈りを献げました。土居弘幸院長の挨拶の後、勤続30年及び10年の2人の職員に感謝の表彰が、司令官スティーブン・モーリス大佐から授与されました。

職員が「球根の中には」(『讃美歌21』575番)を合唱し、最後にガラテヤの信徒への手紙

6章4～9節から、「他者に命を注いでいるあなたに感謝」と題して、司令官からメッセージがなされ、軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が祈りを献げました。集会後はチャペルの入り口において、司令官及び女性部会長が職員に挨拶をしました。神様の深い配慮と導きを称える時となりました。(参加者30人)



YP (青少年部)・ファミリーニュース

天満小隊

●日曜学校教師奨励サンデー

2月8日(日)は、青少年部(YP)と大人部合同聖別会を、日曜学校礼拝形式でおこないました。司会は関根結実ユースセクレタリー、奏楽は関根暁子 YP 会計と、YPの下士官が役割をもち、『日曜学校てびき』に沿って聖書交読や暗唱聖句をしました。出席した子どもたちもいつもの日曜学校のように役割を担い、小隊士官 本村いずみ少佐が「成功させてくださる神を信じて祈る」と題し、ネヘミヤ記の城壁の完成の箇所からメッセージをしました。メッセージの後、ワークブックの問題(低学年用、高学年用)がそれぞれに配られ、挑戦しました。午後の連合集会の前に、恵まれた礼拝と交流の時となりました。



日曜学校形式での礼拝が好評でした

岡山小隊 ●成人のお祝い

2026年1月11日(日)聖別会の席上、武田学さんに、成人お祝いの聖書を贈呈しました。また、山本修爾さんも成人を迎えられました。



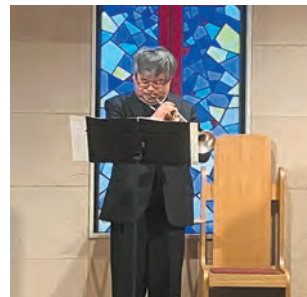
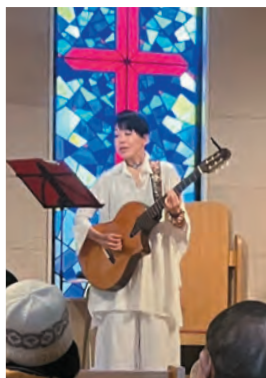
横浜小隊 ●献児式

3月8日(日)聖別会にて、浅野トンプキンス望怜朱(みれあ)さん(4カ月)の献児式をおこないました。鈴木智博大尉が司式し、神様に献げられる望怜朱さんの健やかな成長と祝福をお祈りしました。また、川山和子嬰兒軍曹が、神に献げられた子どもを託される恵みについて、証しました。望怜朱さんの祖母の浅野あゆみ兵士は、「君は愛されるため生まれた」をピアノで演奏し、会衆一同で賛美をしました。小さなお子さんを献げたご両親とご家族、そして横浜小隊の上に祝福を切に祈る恵みのひと時でした。



上野小隊 ●カフェ・ブレッシング

3月14日(土)午前11時～午後7時、「カフェ・ブレッシングー春の音楽とカフェのひとときー」を開催しました。午後2時からシンガーソングライターの美言さんによるコンサート、午後3時30分からは川戸誠さんによるトランペットコンサートがおこなわれました。



5月 青年デー

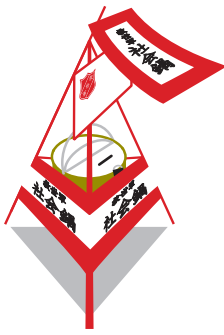
(各連隊)

詳細は小隊でご確認ください!

救世軍
女性の働き5月、6月
女性部ラリー

(各連隊、地区)

詳細は小隊でご確認ください



社会鍋による支援 岡山小隊

●クリスマス会の実施

2025年12月3日(水)「フラでクリスマスを!」と題し、特定非営利活動法人「ステップハウス わ!」の皆さんを岡山小隊に招待してクリスマス会の時をもちました。社会鍋資金による支援品ノートパソコンの贈呈式、ボランティアグループ「アロハノア」の皆さんによるフラダンス披露があり、最後にクリスマスランチを共にしました。22人が参加しました。



アロハノアの皆さんのフラダンス



支援品を贈呈しました

連載

各地の小隊から 第15回 岡山小隊

小隊士官 藤井健次大佐補
藤井千明大佐補



「さまよう人々たちかえりて…」手にコンサチーナ(手風琴)を持ち、慣れない日本語で歌をうたう異国の婦人たちが街角に立って話をしている。さては大安売

りの宣伝か。知る人ぞ知る! これが巷の“西洋法華、救世軍”。当時は「奇妙な軍隊式伝道」と報じられました。

1896(明治29)年7月26日(水)、岡山市大黒町の徳田時計店の二階を集会所として始まった岡山小隊は、今年130周年を迎えます。英国の女性士官クラーク少校とその副官デボンシャ大尉、通訳として江原候補生の3人が岡山小隊の基礎を築きました。

聖書に「神こそ、わたしの岩、わたしの救い、^{とりで}砦の塔。わたしは決して動揺しない」(詩編62:3)とありますが、この130年の期間、迫害、中傷、改革運動、弾圧、そして救世軍の解体、戦争による会館の焼失と続く中で、1952(昭和27)年3月22日に書記長官デビッドソン大佐補司式によって、再開戦献堂式が現在のハレノワ劇場の敷地にて執りおこなわれました。その後、老朽化した会館が新しく建てられましたが、地域の再開発計画によってさらに変化を強いられ、移転新築し、2019年1月13日、現在の岡山小隊献堂に至りました。

現在、岡山小隊では毎週の聖日聖別会を中心に、月に



8月の商店街イベントで。小隊前でおこなった「ステップハウス わ!」の皆さんの作品のセール

2回、新来者を対象とした「おしゃべりカフェ」、月1回、心の拠り所となる「心の泉会」をおこなっています。また、地域への支援活動として、毎年8月におこなわれる「おかやま桃太郎祭り(通称・うらじゃ祭り)」の商店街イベントでは、特定非営利活動法人施設への応援として、手作り作品の販売や体験コーナーのため小隊前のスペースと駐車場を提供しています。



女性の集いで押し花カード作成



クリスマスサンデーの会食とゲーム

コロナ禍以降は、感染予防の観点からかなり気を使っていますが、参加者一同で礼拝と賛美に力を受けています。「岡山四聖人」の一人として、日本人で最初の救世軍士官「山室軍平」を輩出した地として、「心は神に手は人に」をモットーに、「神を愛し、人を愛する」皆として、地域の必要に^{こた}えながら、「伝道と奉仕」に取り組んでいます。ハレルヤ!

〈連載・第38回〉

神の呼びかけ ～神の民となるために～

聖礼典について

聖礼典の理論的根拠

（承前）それは、異教徒の儀礼は偽物、またはキリスト教の儀礼の先行に過ぎないという主張を支持するために、キリスト教の儀礼として洗礼や聖餐を引き合いに出したものでした。

このようにして、「ミステリオン」と「サクラメントウム」は新約聖書で本来もっていた急進的な意味合いを失い、秘儀という意味に捉えられるようになりました。そして、「ミステリオン＝儀礼的な神の表現＝祝福」だとされるようになりました。

新約聖書では、祝福を得るためには物を通してではなく、人を通してなされるべきだと言っています。「あなたがたの内におられるキリスト」が祝福そのものであり、この神の子、また聖霊を通して、教会や信じる者は恵みを得ました。

このような考えに立つと、「聖礼典的」という言葉に別の意味が見えてきます。信じる者たちはキリストと共にあるならば、内なる生活だけでなく、外に向かって変化が表れて、世の人にキリストを紹介することができます。ですから、信じる者たちの生活は「聖礼典的」と表現してよいでしょう。しかし、新約聖書ではこのような表現はありません。サクラメントという言葉は、受肉の言葉として、キリストのみに対して使われているのであり、キリストの唯一性を表す幾つもの表現の一つに過ぎません。新約聖書においては、聖なるものやきよいものという言葉は、この世におけるキリストの生涯を表すときにだけ使われているのです。

最新の研究では、この新約聖書の解釈を支持しています。それゆえ、カトリックの神学者エドワード・スキレベクス（Edward Schillebeeckx）やプロテスタントの神学者カール・バルトも、キリストについて「神と出会う聖礼典である」あるいは「最初の聖礼典である」と表現しています。

多くのクリスチャンがこの意見に賛同するでしょう。キリストは唯一の真の聖礼典であると、喜んで確信できるでしょう。また、祝福の現れであることを、喜んで受け入れることができるでしょう。しかし同時に、信じる者は洗礼を受け、共にパンを割くようにとキリストが言われた言葉には従うべきだと主張することでしょう。これらの行為は儀式として確立しています。クリスチャンはキリストの命令には従うべきではないか。

救世軍人はキリストに従うことを誓約していますが、そのような主張に対してはこう答えます。「では、キリストはわたしたちに何を求めておられるのですか。」

多くのクリスチャンは、ルカによる福音書22章19節やコリントの信徒への手紙一11章24節の御言葉に

従っているでしょう。イエスの死の記念として食べ、飲むために、教会の集まりとして特別に象徴的な食事の場を設けています。ところが、この命令に従った初期の教会でおこなわれていたのは、通常の食事の場で表現することでした。

この御言葉に従うためにどうしたらよいか、救世軍人は自由にたくさんの方を考えることができます。家族との食事、友人との食事、あるいは小隊での会食も、それが普段どおりの食事でも、ちょっとした意味をもつ愛餐会のようなものでも、常にキリストの救いの業を記念し、神の家族の一員として加えられたことを喜び、天の国での饗宴を期待する機会になります。

マタイによる福音書28章19、20節に基づいて、幼児洗礼をおこなうクリスチャンもいれば、信徒による洗礼をおこなっているクリスチャンたちもいます。この聖句は洗礼を命じることを第一にしているのではありません。この御言葉で強調されているのは、三位一体の神の名において「弟子にきなさい」と命じることです。ただ、洗礼という行為が、教会がキリストの大宣教命令を達成するプロセスの象徴的な部分になっています。キリストが教会に求めているのは、キリストの体である教会に結びつけようとしてくださる聖霊の働きに対する感謝の応答として、一人ひとりのクリスチャンが新たにキリストにつながるにより証しをすることです。

兵士の入隊式の際、新しく兵士となる人は、三位一体の象徴として三色を用いた救世軍旗の下に立ちます。その意味は、救世軍がこの新しい弟子を認め、その人がキリストとその宣教の業に身を献げるために信仰の群れに入るよう導くものです。キリストの命令に従うということは、大宣教命令の中にあるのです。

ウィリアム・ブースが救世軍人への声明として発表したのは、主の晩餐の中止には永続的な意図はないというものでした。将来的には再開するというを示唆しています。委員会では、現時点で聖礼典的な儀式を始める必要はなく、適切でもないと判断しました。しかしながら、創立者が暫定的に述べた言葉は、依然として有効であると考えます。今後も救世軍人は聖霊に照らされた御言葉の光に導かれ、自由に応答し、従い続けるでしょう。

救世軍人としてわたしたちの立場は自由です。世界中に広がる救世軍人は、キリストの自由において応答の仕方も様々であり、その宣教も現地によって違うものとなるでしょう。そのような自由と多様性は、救世軍人としての財産の一部であり貴重なものです。

特に強調してきませんでしたでしたが、救世軍の兵士となることは、弟子となることや教会員となることと同義であり、兵士の誓約は洗礼を授けよという命令への応答と同じです。ですから、委員会としては、兵士となること、救世軍の一員となることについて、その本質と条件が、この観点に照らし配慮されるべきだと考えます。

（続く）

救世軍見解表明

社会道德に対する救世軍の立場 第21回「家庭内虐待」(2)

救世軍の立場の土台となるもの

(承前) 虐待によって人間関係を傷つけたり、汚したり、損なったりすることは、全く受け入れられないことなのです。聖書はすべての人が和合して、平和に暮らすようにと勧めています(ローマ12:16、18)。家庭内虐待をする人は、霊の結ぶ実を示しているのではなく、肉の業を示しているのです(ガラテヤ5:19～25)。

他の人々の手による虐待や搾取に苦しむ人々を、神は深く心に留めてくださいます(詩編9:8、9)。このことはハガル(創世16章)、タマル(サムエル下13章)、モルデカイ(エステル5章)、また、イエスが人々、特に女性たちを取り扱われた物語の中に示されています(ヨハネ4:1～26、マタイ9:18～30)。神は虐待を好まれません。聖書はいかなる形の虐待も見過ごしにしたり、正当化することはないのです(詩編10:14～18)。

傷つけられた人はイエスに出会うと、必ず安全な場所に導かれ、その人の価値を認められ、心の思いを理解していただけるのです(マルコ14:6～9)。イエスに従う者たちは、家庭内虐待に苦しむ人々の世話をし、その痛みが癒されるようにと努め(イザヤ1:17)、家庭内虐待に反対する声を上げ、家庭内虐待が間違っていることを発信し、そのために人が傷つくことを阻止しなければなりません(箴言31:8、9、イザヤ1:17、エレミヤ22:3)。

実際の対応

1. 救世軍人は自分の家庭、教会、共同体の中で、健全な人間関係を示して、家庭内虐待を防ぐよう努めます。
2. 子どもが虐待されたり、また、それを目撃した時には、

救世軍は児童安全保護指針に即して対応し、家庭内虐待を受けている子どもを守り、支援します。

3. 救世軍は家庭内虐待を受けた人が声を上げた時には、その声を聞き、何があったのかを学びます。
4. 救世軍の小隊やセンターでは、家庭内虐待の阻止に努め、救世軍の働きの中で人々が安心して過ごせるようにします。
5. 可能ならば、救世軍は家庭内虐待と、その結果とその防止について、学びや訓練を提供します。
6. 家庭内虐待を受けた人たちが立ち直り、虐待から離れようとする時に、救世軍は彼らを尊重し、支援します。
7. 救世軍人たちは家庭内虐待を受けた人々、そこから逃れてきた人々のために祈ります。
8. 救世軍の指導者たちは、世界各地の文化的な考え方や慣習に影響を及ぼすことができ、家庭内虐待防止のために声を上げるべきです。
9. 救世軍は家庭内虐待を受けた人々が、健全な人間関係を育み、安全な生活ができるようにし、新しい生き方ができるようにする、新しい方法を支援します。
10. 救世軍は家庭内虐待が世代から世代へと受け継がれるのを止めるために、進んで若い人々と話し合いをし、できる限りの支援をします。

(2024年6月大将によって承認)

新刊案内

『神の国をめざして—日本救世軍の歴史—5 (1995～2019)』刊行！

ご注文は
出版供給部まで！



B6判、433頁
価格2,500円(税込)

『神の国をめざして—日本救世軍の歴史—5(1995～2019)』が、吉田真中将編著により発行されました。阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震をはじめ、社会の構造や、人々のつながりが大きく揺れ動いた四半世紀における日本救世軍の歩みを、丁寧にたどる歴史書となっています。

災害被災者支援、社会福祉、教育、音楽、国際協力等、多岐にわたる働きを記録するとともに、その背後にある祈り、献身、そして神の導きを見つめます。単なる年代記ではなく、先人たちが受け取った使命とビジョンを学び、これからの救世軍の働きを考えるための一冊です。救世軍の歴史を知りたい方はもちろん、福音を行動で証しする歩みに励ましを受けたい方にもお勧めします。



◆好評既刊 1～4巻
価格等は供給部にお問い合わせください。

救世軍公報

転任

補軍国伝道事業部長

中島美和少佐

二〇二六年五月一日付

シンガポール・マレーシア・

ミャンマー・タイ軍国

司令官 大佐 リチャード・

ボレット

昇任

任大尉(三月二十一日付)

眞鍋嗣道中尉

四十五年永年勤続章

(三月二十三日付) 藤井千明大佐補

三十年永年勤続章

(三月二十四日付) 石坂臣司少佐

(三月二十四日付) 石坂奈緒美少佐

二十五年永年勤続章

(三月二十五日付) 立石真崇少佐

(三月二十五日付) 立石友理恵少佐

(三月二十五日付) 岡本貴仁少佐

司令官

大佐 スティーブン・モーリス



コラム 救世軍の音楽 第1回 (不定期連載)

救世軍音楽——その始まりは19世紀、最暗黒と言われた英国に、「靈魂に行け！ 失われた者に行け！」との情熱をもって救世軍を起こした創立者ウイリアム・ブースへとさかのぼります。ブースは、チャールス・フライ一家が奏でる金管楽器を野戦に活用し、ちまたで歌われる歌も採り入れ、救霊の音楽として用いました。金管バンドが英国各地の小隊で編成され、1883年には音楽部が設立されました。時代に合わせて救世軍音楽はさまざまなスタイルを取り入れながら、発展を続けています。救世軍に与えられている音楽の豊かさを改めて知る一助として、英国救世軍公報『Salvationist』からの記事を中心に紹介します。

魂を救う音楽

——音楽のもつ言語

モーリス・クーパー大佐補

救世軍では長い間、「魂を救う音楽」(soul-saving music)が求められてきましたが、この言葉が表すのは本当のところ、どのようなことなのでしょう。小隊士官や本営士官として、また小隊や連隊ユースバンドの楽長、インターナショナル・スタッフ・バンド (ISB) のメンバー、音楽学校のディレクターとして、そしてオランダでアムステルダム・スタッフ・バンドの楽長として奉仕したことを通して、私は、礼拝の中で音楽はどれほど力強い手段になるかということを理解するようになりました。

プログラムを計画する中で、私はいつも霊的な意味を強くもつ音楽を取り入れるようにしています。言葉(歌詞)を伴う音楽はひとつの手段ですが、歌詞を知らない人にとってメロディーは何を伝えることができるのでしょうか？

最近、テレビのクイズ番組で、「Abide with me (よいやみ四方をとぞし『救世軍歌集』262番)」を含む3つの有名な賛美歌を当てるとい問題が出されていましたが、出演者は一曲も当てることができませんでした。そのような人たちに、救世軍の音楽はどのようなメッセージを伝えることができるのだろう、と私は自問しました。教会にほとんど関わらないという人がますます増えている中で、この問いかけは繰り返されていくでしょう。救世軍の若い世代の人たちを考えてみても、どれだけの人がバンド曲「Constant Trust」に出てくるメロディーの歌詞(『救世軍歌集』301番「みことばなるひかりのうち」、277番「負いなやむ十字架も」など)を知っているのでしょうか？ また、「うけよ ああ 力ある 主の血 うけよ」(『救世軍歌集』107番「つみ重荷をのぞくは」)と私たちは感動をもって歌いますが、私が英国軍隊にいた時は、賛美歌とは

全く違う歌詞がこのメロディーにつけられていたのです！

今日、バンドや唱歌隊のプログラムの中で、救世軍で出版されたのではない楽曲が多く演奏されたり歌われたりしています。これらの音楽には「魂を救う」要素があるのでしょうか？

また、エリック・ボールの「Resurgam」という感動的な曲はマンチェスターのバンドコンテストのためにつくられました。この曲に当てられた救世軍の歌詞はありませんが、ISBがこの曲をロイヤル・アルバート・ホールで演奏した時、深い静寂が会場を包みました。それは、深い霊的経験でした。歌詞のない、コンテストのための曲でしたが、その音楽のもつメッセージは力強く、感動を与えたのでした。

集会やコンサートのプログラムには、クラシックの編曲も含まれることがあります。「ドヴォルザークのメロディー」や「交響曲『イタリア』」からのテーマには霊的メッセージは含まれていないのでしょうか？ チャイコフスキーは多くのすばらしい音楽をつくり、私たちのプログラムでも用いています。レイ・ステッドマン・アレンの「Lord of The Sea」は、私のお気に入りの救世軍の楽曲ですが、歌詞がつけられたのは、曲ができた後でした。

英語が母国語でない国々で用いられる救世軍音楽についてはどうでしょうか？ 英語圏でつくられた曲はどのように聞こえ、翻訳されているのでしょうか？ 私はいつも、音楽はそれ独自の言語をもっているものだとして強調してきました。例えば、私が所属する英国のプロムリーテンブル小隊では「I'm in His Hands (われ主の手にあり)」というコーラスをよく歌いますが、オランダではこのメロディーのリズムに合わせて歌詞を翻訳するのはとても難しかったのです。「Ik ben in zijn handen」という直訳ではうまく入りません。そこで、サビの部分が大きく変わりますが、歌詞を「He is nearby (主はそばにおられる)」と替えました。

私は、音楽に携わるすべての救世軍人に、自分たちに与えられた大切な任務を継続し、キリストを必要としている人々に福音を宣べ伝えるよう奨励します。どうか、歌い続け、演奏し続け、それが霊的な感動をもたらすように祈ってください。私もこのことをオランダでしてきました。そして、プログラムに含まれる聖書のメッセージや証言がすばらしい効果をもたらすようにと祈ってきました。

すべての音楽にはメッセージがあります。感動する曲を一つ挙げるとするなら、私はヴェルディの「レクイエム」と答えます。あなたはどのようなタイプの音楽が好きですか？ また、音楽はどのようにあなたの礼拝体験を助けていますか？ 神様がさらに祝福してくださり、この救世軍を主の栄光のために用いてくださいますように！



〈ご案内〉

軍国指導者就任式 及び 東日本連隊指導者就任式

司式 吉田真中将

2026 年 5 月 9 日 (土) 午後 2 時

会場：山室軍平記念ホール ※限定ライブ配信予定

万国指導者会議 (ICL)

2026 年 3 月 21 日から 28 日まで、ケニア・ナイロビで開催されました。これは、世界各地の軍国司令官や万国本営の士官が一堂に会し、祈りと熟考を通して救世軍の将来を見極めるための重要な会議です。今回はリンドン・バックingham 大将の指導の下で初めて実施された ICL であり、また ICL として初めてアフリカで開催された歴史的な集いとなりました。日本から、司令官スティーブン・モーリス大佐と軍国女性部会長ウェンディ・モーリス大佐が出席しました。

会議初日、バックingham 大将は、「ここは聖なる地。私たちに託されたのは神聖な務めであり、主は私たちと共におられる」と宣言し、会議の霊的性格を強調しました。世界各地から集まった 120 人の指導者たちに対し、重い責任を担う牧者・管理者としての召命を再確認するよう励まし、神の導きを共に求める礼拝として会議がおこなわれることを述べました。また大将は、パンデミック後の世界、地政学的不安、ナショナリズムの台頭、紛争の拡大といった厳しい国際環境の中で、救世軍が直面している課題にも言及しました。

特に印象的だったのは、「救世軍の存在そのものが抗議である」というメッセージでした。大将は、救世軍を「希望と救いがあることを、言葉と行動で証しする可視的な抵抗運動」と表現し、愛、恵み、憐れみ、癒し、聖さの道を示す存在である、と語りました。分断と自己中心性が支配しがちな世界において、神の国が到来していることを示す使命があると強調しました。

3 月 22 日 (日) には、ナイロビのウリンジ・スポーツ複合施設で、9,000 人以上の救世軍人が集う公開集会がおこなわれました。参謀総長エドワード・ヒル中將は、世界の救世軍兵士の半数、そして士官のほぼ三分の一がアフリカにすることにふれ、信仰と使命への忠実さを称え、これからもその歩みが続けるよう奨励し



基調講演をするバックingham 大将



22 日の公開集会で

ました。ケニア東部軍国バンドや賛美チームによる賛美、400 人の青年・子どもたちによる合唱、200 人ものメンバーによるタンバリンなど、躍動感あふれる礼拝が展開され、救世軍の世界的な一致と喜びが力強く表現される時となりました。

24 日からの本格的な討議では、救世軍の「世界的戦略の枠組み『コンパス』」に焦点が当てられました。「コンパス」は、人々を力づける、使命の効果度を上げる、永続的な遺産を確立する、という 3 つの柱を中心に、霊的生活、指導者育成、士官の健康、総合的伝道、資源の分配、万国本営と軍国本営の関係など、12 の重点課題から構成されています。各国・各地域の文脈に応じて戦略を形づくるための指針として活用されることが確認されました。

最終日、バックingham 大将はヤコブ 3:17 を通して「天から来る知恵」について語り、「年を重ねることではなく、神に近づくことで知恵は増す」と指導者としての霊的姿勢をメッセージ。会議は、深い祈りと互いの祝福のうちに締めくくられ、参加者一人ひとりが、それぞれの地へと新たな確信をもって遣わされていきました。



(取扱支部)

発行日及び定価

発行所

編集人

印刷所

電話

〒101-0051

東京千代田区

神田神保町二丁目十七番

電話

東京(03)三三七〇八八一

発行所

救世軍本営

印刷所

有限会社コーチ印刷

代表者

西村 保

編集人

平本祐子

電話

東京(03)三三七〇八八一

発行所

救世軍本営